

ヤングオフィシャルキャンプ2007参加レポート

松戸 健作

日程：平成19年8月10日（金）～12日（日）

会場：埼玉県立スポーツ研修センター、上尾市運動公園体育館

講師：Jakub Zamojski ・ 橋本 信雄 ・ 関口 知之 ・ 吉田 正治 ・ 吉田 利治
清水 幹治 ・ 山崎 人志 ・ 安西 郷史 ・ 佐藤 誠 ・ 小澤 勤
平原 勇次 ・ 東 祐二 ・ 水島真一郎 ・ 岩田千奈美 ・ 水原 規恵
中嶽希美子 ・ 堀内 秀紀 ・ 平野 彰夫 ・ 佐々木 潤 ・ 子永吉陽子

総務：後藤 弘志 ・ 森田 良治 ・ 栗原 俊之 ・ 小林 剛樹 ・ 貫井 義昭

参加者：25歳以下の日本公認審判員 男子26名・女子18名 の計44名

時程：【8月10日（金）】

12:00～13:00 受講者受付
13:00～13:20 開講式
13:20～14:00 更衣・移動（上尾市運動公園体育館）
14:30～17:00 <実技Ⅰ>（高校生男子のモデルゲームの審判実技 10分×2を1本）
17:00～ 研修センターの利用説明
17:00～18:30 部屋に移動・入浴・夕食
18:30～18:45 橋本部長挨拶、初日の総評（Zamojski氏）
18:45～19:15 <講義Ⅰ>
講師 堀内 秀紀氏（日本協会事務局）
19:15～20:00 <講義Ⅱ・基調講演> 「遠すぎた北京への道」
講師 子永吉 陽子氏
20:00～20:30 <特別ゲストからのコメント>
講師 萩原 美樹子氏（日本代表Aコーチ）
20:30～21:30 班別ミーティング（自己紹介、班長決め、課題学習 他）
21:30～22:30 入浴・就寝準備
23:00 消灯

【8月11日（土）】

6:30 起床
6:30～7:00 洗面・部屋掃除等
7:00～8:00 朝食・出発準備
8:30～9:00 移動・実技準備
9:00～17:00 <実技Ⅱ>（研修センター体育館、上尾市運動公園体育館）
（高校生男女のモデルゲームの審判実技 10分×2を2本）
17:00～19:00 移動・入浴・夕食
19:00～19:30 <講義Ⅲ> 「ルール・マニュアルについて」
講師 平野 彰夫 規則委員長
19:30～20:00 <講義Ⅳ> 「審判活動における語学力の重要性について」
講師 佐々木 潤 国際渉外委員長
20:00～21:00 <講義Ⅴ> 「レフェリングに関するレクチャー」
講師 Zamojski Jakub氏
22:00～22:30 入浴・就寝準備
23:00 消灯

【8月12日（日）】

6:30 起床
6:30 ~ 7:00 洗面・部屋掃除・片づけ（各自荷物整理）
7:00 ~ 8:00 朝食・準備・部屋点検
8:00 ~ 閉講式・移動・実技準備
9:00 ~ 14:30 <実技Ⅲ>（研修センター体育館）
（高校生男女のモデルゲームの審判実技 10分×2を1本）
（各自帰りの交通機関に合わせて随時解散）

●8月10日（金）

<実技Ⅰ> 高校生のモデルゲーム

試合：川口北 vs 桶川

主任：清水 幹治 氏、安西 郷史 氏

審判：主審：松戸 健作（岩手）

副審：行本 宏美（山口）

●8月11日（土）

<実技Ⅱ> 高校生のモデルゲーム

試合①：坂戸 vs 葛西工

主任：Zamojski Jakub 氏、清水 幹治 氏、安西 郷史 氏、平原 勇次 氏

審判：主審：松戸 健作（岩手）

副審：伊藤 綾奈（宮城）

試合②：川越南 vs 葛西工

主任：清水 幹治 氏、安西 郷史 氏、平原 勇次 氏

審判：主審：松戸 健作（岩手）

副審：春山 達丈（宮崎）

●ヤングオフィシャルキャンプに参加しての感想

まず、3日間のキャンプに参加して思うことは、コミュニケーション能力の大切さであった。初めて会う人たちとも恥ずかしがらず、積極的にコミュニケーションを取ろうとしている人は、自分の笛も積極的であったように感じられた。もちろんそれは、プレゲームカンファレンスや試合中、そして試合後にも言えることで、相手審判と協力して判定し、また協力して試合を運営する審判員としても、また人間としても必要な能力であることを改めて実感できた。私自身、その点では積極的になれなかった部分も多くあったため、今後の審判活動において改善していく課題となった。

実技に関して指導していただいた点については、難しいことよりもまず、相手審判との連携とコミュニケーション、基準の合致、コンビネーションなど基本的な事項についての指導がほとんどであった。また、3・4番エリアの受け渡しと責任範囲の確認、さらには5・6番エリアの境目でのセンター等の1対1（ポジション取りも含む）については、リードが怖がらずにリングを越えて見に行く姿勢が大事であり、その時の他のプレーヤーへの協力・責任などについて、熱心に指導していただいた。さらに、24秒や各ピリオド終了とほぼ同時のショットの成功・不成功について、トレイルだけではなく、リードも含めた両審判で確認し合うことも指摘された。個人的には、笛が弱く選手に聞こえづらかった事、判定が合っていても笛が遅かった事、相手審判とのコンビネーション、スペースを見ながら次の動きへ対応することなどについて指導していただいた。

YOC全体を通じて、「自分は岩手の審判員の中で、まだ若い方だな」と思っていたが、他県ではもっと若い審判員が積極的に活動しており、かなりの刺激になった。岩手を代表してYOCに参加している責任を期間中に感じていたが、それ以上に、これからYOCでの経験を生かした審判をするという大きな責任を感じている。そのためにも、今回勉強してきたことを生かし、そして自分の技術をさらに伸ばし、岩手を代表する信頼される審判員を目指す決意である。

最後に、今回のYOCへの参加にあたり、たくさんのお力添え頂いた方々へ感謝し、参加報告とさせていただきます。本当にありがとうございました！！